

## 大正地獄で熱湯噴出



▲噴出前の大正地獄

### ～天然の足湯が変色～

5月3日(木)、大湯沼の近くにある『大正地獄』で高さ3～5mの熱湯が噴出。通報を受けた札幌管区気象台や北海道大学などが現地調査を行い、灰色の泥混じりの熱湯が連続して噴出しているのを確認しました。

この噴出で、大正地獄の湯の温度は97度にも達していたほか、目の前にある展望台も、泥混じりの熱湯をかぶっていたため、市では観光客の安全を考え、大正地獄の展望台入り口を立ち入り禁止にしました。

大正地獄は、大正時代に小爆発により誕生した湯沼で、約10日間の周期でその湯量を増減している間欠泉であり、湯の色を変える不思議な沼でもあります。

また、近くにある天然の足湯には、大正地獄から噴出したお湯が流れ込み、お湯の色はすっかり変色。これを聞きつけた観光客は、ゴールデンウィークとあって1日に2,000人を超える日もありました。

足湯に車で来られる方は、駐車場がありませんので、地獄谷か大湯沼の駐車場をご利用ください。



▲熱湯が噴出している大正地獄



▲足湯

## 水泳の楽しさを学びます ～らくあ水泳教室（成人コース）～



5月8日(火)から市民プールで『らくあ水泳教室（成人コース）』（文化・スポーツ振興財団主催）が始まりました。

この水泳教室は、水泳の楽しさを知ってもらい、水泳人口を増やそうと開催されたもので、初心者や息つき、平泳ぎ・バタフライ、マスター（4種目）の各コースに分かれた参加者89人が7月まで泳ぎ方を学びます。

5月9日(水)から始まった息つきコースでは、水中での手の使い方やバタ足の仕方などを学んでいました。

息つきコースの参加者は、「以前に初心者コースに参加して少し泳げるようになったので参加しました。楽しみに息つきしてクロールを泳ぎたいです」と目標を話してくれました。

## 地獄谷周辺の観光拠点が一新 ～登別パークサービスセンター<sup>しんごう</sup>竣工式～

4月25日(水)、登別温泉地獄谷の入口に新設された登別パークサービスセンター（自然公園財団所有）で関係者ら約30人が出席し、竣工式が行われました。

登別パークサービスセンターは、昭和59年に建築されましたが、温泉成分による腐食が進んだため、(財)日本宝くじ協会の助成により新しく建て替えられました。

外観は、昭和初期の登別温泉バス停を参考にし、周辺の自然景観を損なわないように設計。カラマツやスギ、ミズナラなどの道産材を使用したほか、釘やボルト、内部補強金物、給水配管、屋根材にいたるまでステンレス製としており、温泉成分による腐食にも長期間耐えるような建物となっています。

1階には、健康増進の一助になればと遊歩道散策による消費カロリーを表示したパネルを展示したほか、地獄谷周辺の観光コースの映像を見ることができます。

